

		厚生常任委員会	
令和2年2月10日受理		請 第 13 号	
件 名	パーキンソン病患者への難病対策の推進に係る意見書の提出を求める請願		
紹 介 議 員	提 出 者 住 所 氏 名		
藤 川 隆 夫 末 松 直 洋 吉 田 孝 平			
<p>(要 旨)</p> <p>指定難病の一つで進行性の病気であるパーキンソン病の患者のために、下記の項目について、国に対して意見書を提出されるよう請願する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 完治療法を確立するために、パーキンソン病の原因究明と遺伝子治療・再生医療など先進的治療法の研究・開発を一層推進すること。</li> <li>2 指定難病の見直しを検討する場合には、「難病の患者に対する医療等に関する法律」制定時の「患者数だけでなく、患者の治療状況や指定難病に指定された経緯等も考慮しつつ、慎重に検討すること」との附帯決議を十分踏まえて検討すること。</li> <li>3 高齢者のみの世帯の多いパーキンソン病の患者と家族が、毎年行わなければならない特定医療費の申請手続について、事務手続等負担の軽減を検討すること。</li> <li>4 全国どこに住んでいても、我が国の進んだ医療を受けることができるよう、難病の地域医療提供体制におけるパーキンソン病の専門医療を充実して、地域格差なく、パーキンソン病の医療が受けられるようにすること。</li> </ol> <p>(理 由)</p> <p>我が国では、パーキンソン病患者は18万人を超えていると言われており、超高齢化社会の進展に伴い、患者の人口に占める比率は年々高くなって、社会的な認知度も上がっている。パーキンソン病の治療法の研究も近年めざましく進歩しているが、まだまだ原因究明も完治療法の開発も確立していない難病である。その症状はゆるやかではあるが、進行性で、一旦発病すると長期にわたる治療が必要となり、難病を抱えながら社会の一員として生活し、働き続けるためには、パーキンソン病に対する総合的な対策がまだまだ必要不可欠である。</p> <p>さらに、パーキンソン病患者が一番期待していることは、「完治療法」が開発されることである。生きる希望を失うことなく、治療に専念できる環境を整えるためには、政治の力が不可欠である。</p>			